

| | | | |
|--------------------|--------------------------------|---|----|
| 会議名 (審議会等名) | 川西市保育所整備計画に関する懇話会 (第5回) | | |
| 事務局 (担当課) | こども子育て室保育課 内線 (2698) | | |
| 開催日時 | 平成21年3月16日 (月) 午後6時30分～午後8時38分 | | |
| 開催場所 | 川西市役所202会議室 | | |
| 出席者 | 委員 | 会長 農野 寛治 副会長 田中 文子 委員 石丸雄次郎 喜谷千恵美 南 博美 矢羽田徳子 和田 和代 畠山 栄子 山中 華子 森本 純子 | |
| | その他 | | |
| | 事務局 | こども部長 後藤 哲雄 こども子育て室保育課長 塚北 和徳 こども子育て室保育課主幹 山元 昇 同 副主幹 森木 みち子 同 主査 河南 裕子 | |
| 傍聴の可否 | 可 | 傍聴者数 | 9人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、その理由 | | | |
| 会議次第 | 別添「審議経過」のとおり | | |
| 会議結果 | 別添「審議経過」のとおり | | |

審 議 経 過

第5回川西市保育所整備計画に関する懇話会審議経過（要旨）

日時：平成21年3月16日

午後6時30分～8時38分

場所：川西市役所 202会議室

出席者：10名（欠席者：1名）

[会議次第]

1 開会

2 説明事項

（1）アンケート調査の結果について

（2）平成21年度の予定について

3 意見交換

テーマ：まちづくりの中の保育所の位置づけ

説 明：まちは保育所に何を期待しているのか、保育所の配置はそれに適っているのかなど、まちにとっての保育所の存在意義などをご協議ください。

4 その他

5 閉会

事務局

議 事

【1. 開会】

皆様、こんばんは。まだ一部の委員の方がお見えになっておられませんが、ご案内しておりました午後6時半となりましたので、ただいまから第5回目の川西市保育所整備計画に関する懇話会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては、年度末の大変お忙しい中、本懇話会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

開会に先立ちまして、委員の皆様のご出欠状況についてご報告いたします。大谷委員さんから所用によりご欠席のご連絡をいただいております。その他の委員さんは全員ご出席でございます。

次に、本日の会議資料につきましては、事前にご送付させていただいておりますが、本日ご持参いただいていない方がおられましたら、お配りいたしますので、お知らせください。

また、本日の追加資料といたしまして、本市の中学校区別保育所入所待機児童の状況に関します資料をお配りさせていただいております。

続きまして、本日の会議内容でございますが、お手元の次第にありますように、事務局からの説明事項といたしまして、1点目は、1月に実施いたしました公立と民間認可保育所の保護者と保育士に対するアンケート調査と、認可外保育所の保護者に対するアンケート調査の集計結果の、速報の段階のご説明と、2点目は、整備計画の、21年度の策定スケジュールの予定の説明をさせていただきたく存じます。

その後、意見交換では、以前に委員の皆様からいただいておりますご提案に基づきまして、本日は「まちづくりの中の保育所の位置づけ」をテーマに、委員さんの間でフリートーキングをしていただくことにしております。どうぞよろしく願い申しあげます。

それでは早速ではございますが、農野会長に懇話会の進行をお願いしたいと存じます。会長、よろしく願いいたします。

会 長

皆さん、改めましてこんばんは。

年度末の何かとお忙しいところ、お集まりくださいまして、ありがとうございます。また、今日も傍聴の方々お見えくださりましてありがとうございます。

今日は、早いもので5回目になるんですが、「アンケート調査の結果について」、そ

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>して「平成21年度の予定について」という説明をいただきまして、その後、意見交換として、「まちづくりの中の保育所の位置づけ」というテーマをいただいております。お時間の許す限り、活発なご意見をいただきたいと思います。</p> <p>概ね、8時半をめぐりと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速、次第に従いまして、1番目の説明事項、「アンケート調査の結果について」ということで、事務局のほうからご説明をお願いいたします。</p> <p>【2. 説明事項】</p> <p>恐れ入りますが、お手元のほうに、右肩のほうに資料1-1と書かれましたものをご用意ください。</p> <p>「保育所整備計画に関するアンケート調査・調査結果（速報）」ということですが、まだ、集計票も返って来ている段階でございまして、できる限り皆さまのご意見を、そのアンケート結果に盛り込みたいということもございまして、今後若干変更になる可能性もございまして。</p> <p>それと、記述式の回答についてですけれども、ご意見を自由に書いていただく問いが幾つかございましたけれども、その部分については現在取りまとめ中ということでございまして、今回の調査結果には含んでおりません。すみませんが、あしからずご了承ください。</p> <p>資料1-1には、調査の目的から始まりまして回収率まで、ざっと調査の概要を記載させていただいております。基本的には、以前の懇話会でご説明をさせていただいた内容と大きな相違はございません。</p> <p>5番目の回収率についてでありますけれども、公立及び民間認可保育所の児童の保護者の方に対する調査ですけれども、500人の方に対して調査票を配布をさせていただきまして、回収は324票ということで、回収率64.8%です。</p> <p>保育士さんへの調査ですけれども、こちらのほうは161人の方に調査票をお渡しさせていただきました。132票の回収ということで、回収率については82.0%。認可外の保育所に入所する児童の保護者の方につきましては、109人の方に調査票を送らせていただきまして、回収数は52票、47.7%の回収率ということになっております。</p> <p>以上が、調査概要ということでございまして、以降別冊になりますけれども、資料1-2といたしまして、認可保育所の保護者の方へのアンケート調査結果、それから1-3といたしまして、保育士さんへのアンケートの調査結果、それから1-4といたしまして、認可外保育施設保護者の方へのアンケート調査結果という形で、それぞれホッチキス止めとしまして、資料としてお渡しさせていただいているかと思っております。</p> <p>今回は、そのアンケート調査の結果の中でも特徴的と思われることに項目を絞りまして、ざっとご説明をさせていただきたいと思っております。</p> <p>それではまず資料1-2「認可保育所保護者アンケート」について。</p> <p>認可保育所に、子どもさんが通っていらっしゃる保護者の方に対するアンケート調査結果のほうからになりますけれども、まず問1から始まりまして、問1につきましては、お子様の生年月月をご記入くださいということで、これによって、何歳児クラスかというふうなことがわかってまいりますけれども、ご覧いただきましたとおりです。実際の割合との乖離ですけれども、確認をしてみましたけれども、ほぼ実際入所されている方との比率と近い数字です。一番多く乖離をしているところで、3%程度の乖離ということですので、ほぼ、実際のクラスの割合の実態を反映した結果となっております。</p> <p>問2につきましては、市立、私立どちらですか、ということでお尋ねをしているわけですけれども、ご覧いただきましたとおり、回答数については190、58.6%。124、38.3%というふうなことでございますけれども、こちらにつきましても、実際、公立に通っていらっしゃる方が55%ほど、私立のほうは44.8%ほど、というふうなことでございますので、若干私立のほうは低くは出ておりますけれども、公立についてはほぼ似たような近い数字というふうな形になっております。</p> <p>問4に飛びますけれども、アンケート調査の回答をされる方につきましては、母親が回答されるケースがほぼ9割というふうなことで、圧倒的にお母様がアンケートに回答</p> |
|-----|---|

いただいたということです。

次のページ、問6については、どういった理由でお子さんを保育所に預けておられますかという質問でございますけれども、ほぼ100%に近い方が、お仕事をなさっているからというふうなことでお答えをいただいております。複数回答が可能などございまして、複数回答可能な部分につきましては、回答者に占める割合ということで、お示しをさせていただいておりますけれども、保護者がお仕事をされていらっしゃるケースが100%に近い数字ということで、片方の保護者の方がお仕事をされておられて、もう片方が、例えば休職中、あるいはご病気というふうなケースが幾つかあるという状況です。

保育所の利用状況についてですけれども、平日、月曜日から金曜日につきましては、すべての曜日で95%を超えるような利用率というふうなことでして、土曜日については36.1%という形になっております。日曜、祝日については、休日保育を市内で1カ所やっておりますけれども、かなり低い数字という形になっております。

平均的な利用時間については、利用を開始する時間の平均が8時13分。終了が17時43分というふうなことで、利用時間については、9時間30分程度が平均の数値という形になっております。

以上が、お答えをいただいた方の概況に当たる部分ですけれども、それ以降の部分については、評価、満足度等の調査というふうなことで、一部市立と私立ということで対比をさせたほうがよいなという部分については、調査票の回答を、対比をさせるような形でお示しをさせていただいております。

問8、総合的に見て、現在の保育所に満足していますかという、保育所を評価していますかという問いについてですけれども、概ね、かなり高い割合で評価をいただいていると言えるかと思えます。

市立については、満足している、評価していると答えていただいた方。概ね満足、評価していると答えていただいた方、合わせますと86.8%。私立については93.6%という形で、いずれもかなり高い方が満足をしていただいているという状況です。

一番下に、平均点という形で書いてありますけれども、これは1に近いほど満足度が高く、5に近いほど不満、というふうな形での点数というふうなことでございますけれども、若干市立に比べて私立のほうが満足度が高いということです。

どういう点に満足しているかということが、問9の質問ということになりますけれども、市立で言いますと、一番上の保育の内容について満足をしていただいている方73.2%で、ここが一番多いです。それから、その5つ下ですか、子どもの接し方、こちらが71.1%で第2位。中ほどよりちょっと下になります給食65.3%で第3位ということです。

一方、私立のほうについては、1位については、保育の内容ということで変わりがございませんが、2番目に多い74.2%、ちょうど真ん中辺ぐらいですか、全体的な雰囲気というところが2番目で、3番目については、給食という形になっております。

市立と私立で、差が少し開いているかなと思われる項目ですけれども、上から2つ目の保育時間については、私立のほうが満足度が高い。先ほどの全体的な雰囲気についても、私立のほうが満足度が高い。その下の安全管理についても私立の方が満足度が高い。それから、下のほう、下から4つ目になりますけれども、施設や設備についても、私立のほうが満足度が高いという結果になっております。

続きまして、次のページですけれども、不満な点についてですが、問10についてでありますけれども市立、私立ともに、1番は保育料ということで4割程度の方が何らかの形で不満に思っているということです。

市立のほう、やはり施設や設備について不満に思っている方が多くて、29.5%。一方、私立については、その他の質問が16.9%ということで、次いで、懇談会や行事という形になっております。市立の方も、第3位が懇談会や行事という形になっております。

問11につきましては、安全だと思えますかという質問です。

問12につきましては、快適だと思えますかという質問ですけれども、安全だと思う、概ね安全だと思う、というお答えを合わせまして、市立は73%。私立につきましては、81%。

快適性につきましても市立の部分で74%、私立の部分で90%という形で、いずれも高い割合で、安全あるいは快適とさせていただいているということが言えるかと思えます。

次、入所等に関することが、問13以降に質問をさせていただいているわけですが、第1希望の保育所に入所できた方が87%ということで、9割近い方が第1希望に入らせていただけているという状況かと思えます。

次の質問は、入所希望の保育所を決める際に重視したことということですが、自宅に近いことが、70%ということで、かなり多数を占めておられて、次は下から4つ目、保育の方針がよいこと。こちらが26%ということで、自宅に近いことに次いでいるという状況です。

問15は、保育所は本来どこにあればいいでしょうかという、どこにあるのが望ましいかと思えますかという問いでございますけれども、こちらについても、先ほどの問いと、ほぼ整合を図ったような数字で、自宅の近くが70%ということで最も多うございます。次いで多いのは待機児童が多い地域ということで、こちらは31%を占めているという状況でございます。

続きまして、次のページですけれども、待機期間についての質問ですけれども、待機期間はなかったとお答えいただいた方が62%で、6割の方が待機期間がなく入所をさせていただいているという状況です。以降、待機期間があった方なんですけれども、6カ月以下の待ちの期間に入所できた方が88%です。9割近くの方が6カ月以内に、いずれかの認可保育所に入所していただけているということでした。

次に、待機期間に利用した施設をお尋ねしていますのが問17ということですが、認可外保育所をお使いになられた方が14%。また、自宅で過ごされていたという方も14%という形になっております。

1つ飛びまして、問19ですけれども、通所に使われている主な交通機関についてですが、56%、6割に近い方が自動車を使われているということで、次いで自転車という状況になっております。

問21は、保育所に期待する地域の子育てを支援する事業という質問ですが、こちらにつきましても、7割近い方が上から4つ目の、病気のときでも、子どもさんを医療的な配慮の下で預かっていただける事業、いわゆる病児・病後児保育という事業かと思えますけれども、そちらをご希望される方が7割近く。次いで、日曜や祝日に預かっていただける事業ということで、50%程度の方が期待をしているという状況でございます。

以上が保護者のアンケートということで、続きまして、保育士さんに関するアンケートですけれども、資料1-3、保育士アンケートと右肩に書かれた資料をご用意ください。

こちらにつきましても、問1から始まりまして、最初ご本人さんの状況を確認する問いが続いておりますけれども、問2、今の保育所にはいつから勤務をしていらっしゃいますかということで、平均しました勤務年数は6.64年というふうなことになっております。

それと関連しておりますけれども、保育士としての、通算した経験年数はどれぐらいですかということですが、市立の部分につきましても27%の方が30年以上40年未満。次いで、21.6%の方が10年以上20年未満というお答えをいただいております。

私立のほうにつきましても、3年以上5年未満の方が22.8%、5年以上10年未満の方がおおよそ2割、19.3%という状況です。

問5では、平均的な勤務時間をお尋ねしておりますけれども、市立、私立、ほとんど差がないような状況でございます。8時間を少し超えた程度ということですが。

問6では、生年月をお尋ねしておりますけれども、そこから計算をしました年齢ですが、平均値で市立は40.6歳、私立は33.4歳という結果になっております。

次、満足度に対する調査をしておりますけれども、先ほど保護者の方の数値をご説明させていただいて、かなり高い数値ですねということで、いずれも85%を超えた数字であったわけですが、保育士さんのほうはかなり厳しく見ておられるということで、市立の保育士さんについては満足している、概ね満足しているを合わせまして51.

3%。私立のほうは66.7%という結果になっております。

どのような点に満足しているか、評価しているかというふうなことですけれども、市立の部分については給食、それから全体的な雰囲気、それから保育の内容という順になっております。

私立については、真ん中辺の、全体的な雰囲気ということが70%ということで、かなり高い割合を示しております。次いで、一番上の保育の内容、給食という順位です。

市立と私立で若干開きがあるなという部分ですが、全体的な雰囲気に関しては、市立が50%程度に対して、私立は70%という形で若干開きが出ております。

少し下の健康診断・健康管理の部分につきましては、市立の方が3割程度、私立の方は17.5%という結果。

それから、下から4つ目の施設や設備については、市立については2.7%、私立は26.3%という結果になっております。

次に、不満な点についてですけれども、市立につきましては、下から4つ目の施設や設備が一番多い割合を示しております。これは、私立についても同様でして、パーセンテージは違いますけれども、私立についても、施設や設備に関する点が一番多くなっております。

次いで、全体的な雰囲気、市立のほうは23.0%。それから、下のほうの地域とのかかわり、職員の労働条件が同じ数字で並んでおります。私立については職員の労働条件が38.6%、地域とのかかわりが17.5%という順番になっております。

問10、11の、施設や設備の安全・快適についての質問ですけれども、いずれも市立のほうについては50%程度、私立については80%を超える数字という結果になっております。

次のページですが、問12、保育の質を高めるために必要なことはどのようなことですかという質問についてでございますけれども、市立については、職員のチームワークが必要だと答えていただいた方が7割程度。次いで必要な予算の確保。それから、施設や設備の改善という順になっております。私立については、やはり職員のチームワークというお答えが一番多かったのですが、次いで、職場以外の場所での研修や学習ということで、6割を超える方がお答えをいただいております。そのあと職員の意識改革という順番になっております。

問13、保育所を決めるにあたって、どのような点を重視しますかというふうなことですが、やはり1番は自宅に近いことということで、こちらは先ほどの保護者のアンケートと相違はございません。ただ、2番目につきましては、保育スタッフが充実しているという答えが多くなってきております。

保育所は本来どこにあるのが望ましいかという問いにつきましても、半分を超える保育士さんは、自宅の近くというお答えをいただいているわけですが、待機児童が多い地域のほうがそちらを上回って、56.8%という答えになっております。

次いで、地域の子育てを支援する事業について、保育所に期待されているのはどういったことですかという質問ですが、こちらのほうは子育てに関する相談・支援が65.9%ということが多くなってきております。次いで、一時的に子どもを預かる事業という形になっておりますが、下から5つ目の園庭や保育室の開放も40.2%ということもございまして、保育士さんの視点からは、先ほどの、満足度のところにも少し出てまいりましたけれども、地域とのかかわりを期待されている方が比較的多いという傾向が見えるかと思えます。

認可外の保育施設についての調査資料1-4を、すみませんお手元にご用意をいただきたいんですけども、こちらのほうにつきましては2ページから、問6ですけれども、平均的な利用時間については9時間25分ということで、認可保育所のほうが確か9時間30分ですので、大差はないというふうな状況です。

満足度につきまして、問7からですけれども、75%の方が満足をしていただいているという状況です。認可保育所に比べますと、若干低いんですけども、多くの方が満足をしていただいているといった状況かと思えます。

満足している点につきましては、保育の内容、それから立地条件が2番目です。同じ割合で給食という形になっております。

不満な点につきましては、半数を超える方が施設や設備という形でお答えをいただい

ておりまして、上のほうから3つ目の保育料、それから懇談会や行事と続いています。

問10、問11の安全・快適についてですけれども、こちらについても7割を超える方が、安全だと思う、概ね安全だと思うというお答えをいただいております。

問12に移りますけれども、待機期間につきましては、100%の方が、待機はなかった、ご希望どおり入所いただけたという状況になっております。

問14、現在の認可外保育施設を選んだ理由についてですけれども、認可保育所に入所ができなかったからというお答えが4割です。こちらでも複数回答可になっておりますので、それ以外に、便利な場所にあるからというお答えが7割程度。保育の内容が気に入った、職員の態度がよいというのが4割程度という形になってきております。

問16につきましては、こちらでも認可保育所とよく似た傾向ですが、自動車をお使いになって送迎をされていらっしゃる方が多いという状況です。

問17については、認可保育所への入所、転所のご希望をお尋ねしている質問ですけれども、上2つが認可保育所への転所希望ということですが、一刻も早く、できるだけ早くという方が13.5%、21年4月からというお答えが7.7%、合計21.2%、2割程度の方が認可保育所へ転所をご希望です。幼稚園へのご希望が21.2%というふうなことです。4割程度の方が転所希望をお持ちです。

一方、今、通っていらっしゃる場所に続けて通いたいんだとお答えをいただいている方が同じく4割程度いらっしゃる、そういう結果になっております。

転所する認可保育所を決める際に重視をすることですけれども、保育の方針がよいこと。それから、自宅に近いことが、比較的高い割合を示しています。

問19につきましては、認可保育所はどこにあるのが望ましいですかという問いですが、6割を超える方が待機児童が多い地域、次いで自宅の近くという結果になっております。

最後に、認可保育所に期待する地域子育てを支援する事業については、こちらのほうは、やはり認可保育所の保護者の方とちょっと傾向が似通っておりまして、一番多いのは、病気の時でも預かっていただける事業、次いで休日に預かる事業という結果になっております。

ざっとご説明をさせていただいて、ちょっとわかりにくい部分もあったかもしれませんが、今後調査結果の内容の精査、分析を行いまして、正式な報告書ということで、取りまとめをさせていただきたいと考えております。

クロス集計など、こういった分析をしてもらえませんかとか、あるいはこういう視点の数値が欲しいんだとかのご希望がありましたら、恐れ入りますが、事務局のほうにお知らせいただきましたら、可能な限り対応させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

資料2についても、併せて説明をさせていただきたいと思っております。

お手元の方に、資料2、平成21年度川西市保育所整備計画の策定スケジュールをご用意いただきたいと思います。こちらにつきましては、縦軸に左から月、懇話会関係、市、市民・関係機関等、説明ということで、それぞれの主体ごとに、各月に、どういった事柄を予定しているかという形で、模式的に表示をさせていただいた資料になっております。

4月からスタートしておりまして、まず4月、5月、6月、3カ月間くらいの間に、今まで懇話会で、ご議論いただいた内容やアンケート調査の結果なども踏まえて、事務局の素案をつくっていきたく。それについて、庁内での関係部署との検討を経た上で、6月には懇話会のほうにお示しをさせていただいて、ご説明もさせていただき、それに基づいた議論をお願いできないかと考えております。こちらでの議論を踏まえて、素案を修正させていただいて、保育所整備計画の原案をつくっていきたくと考えております。それが6月から8月です。事務局のほうの予定といたしましては、大体3回から4回程度、懇話会を開催させていただいて、素案についてご議論いただきたいと思います。

その後、原案を社会福祉審議会の児童育成専門部会、こちらについては次世代育成支援対策行動計画をご協議いただいている専門部会でございますけれども、そちらのほうにご説明をさせていただいたり、また広くインターネット等を使いまして、市民の皆さま

| | |
|-----|---|
| | <p>んからご意見をお伺いをさせていただいて、それらを踏まえて、保育所整備計画の最終案という形に取りまとめをさせていただきたいと。その最終案につきまして、再度懇話会のほうにお示しをさせていただいて、ご協議をいただきたいと考えております。それが、10月下旬から、もしかしたら11月初旬に入ってしまうかもしれませんが、それぐらいの時期を予定しております。</p> <p>その後、庁内手続を経て計画策定完了、これが11月中ということですので。その後、計画を公表や、あるいは実施に向けた様々な取り組みをしていくということを予定いたしております。</p> <p>簡単でございますけれども、平成21年度のスケジュールについてです。この計画でいきますと、次回の懇話会は6月ごろに開催という予定をいたしておりますけれども、具体的な日程につきましては、まだ何月何日という部分は、決めておりません。事務局のほうで実施をいたします素案づくりのほうの進捗状況を見ながら、また会長さんともご相談をさせていただきながら、概ね会議の開催をいたします1カ月ぐらい前には開催のお知らせをさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> |
| 会 長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>ただいまアンケートの結果と、そして21年度の、川西市の保育所整備計画の策定スケジュールの予定ということで、ご説明をいただきました。</p> <p>この中学校区別保育所入所待機児童の状況の資料3のほうは。</p> |
| 事務局 | <p>今日、お手元のほうにお配りさせていただいた資料ですけれども、こちらにつきましては、中学校区別の保育所入所待機児童の状況をお示しした資料でございます。アンケートの結果を見ましても、1つは自宅に近いところがいいなというご意見、あるいは待機児童がたくさんいらっしゃる場所に必要なのだというご意見もございましたことですので、3月1日時点での待機児童の状況を中学校区ごとに集計をさせていただいた資料になっております。</p> <p>左のほうには新基準ということで、右のほうには旧基準の待機者数を示しておりますけれども、旧基準については就労希望を含んでおりまして、新基準については就労希望の方を除く数字ということです。ですから、新基準のほうが、いわば旧基準の内数というふなことで、一番上の南中学校の例ですと、就労希望を含む方25人の待機がおられるわけですけれども、そのうち就労希望の方を除いた、ご両親ともお仕事をされていらっしゃるようなご家庭の子どもさんが9人いらっしゃると、そういう資料になっております。</p> <p>この資料を見てみますと、川西中学校の校区、市のほぼ中央部に当たります能勢口駅周辺を主な校区とする部分ですけれども、ここがいずれも2割を超えているような状況になっております。市内の保育所がない地域、いわゆる空白地域と呼ばれておりますのが清和台中学校の地区ですけれども、どちらかという中部から北部に近い地区ですけれども、ここでも旧基準のほうで16.4%ということで、比較的高い数字。それと南部、北伊丹駅から、JRの川西池田から南の南部地域で18.7%ということで、こちらもやや高めの数字です。</p> <p>次のページですけれども、中学校区別保育所入所児の状況ということで、こちらについては、10月1日の数値ですけれども、前回の懇話会にお示しさせていただいた部分を参考としてつけさせていただいております。市全体での保育所、幼稚園の配置状況についても、こちらも以前の懇話会で配付をさせていただいた資料ですけれども、参考ということで添付をさせていただいております。すみません、説明が漏れまして申し訳ございません。以上でございます。</p> |
| 会 長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>今日、ご説明いただく資料は、一応全部お話しいただいたわけですが、このアンケート、出していただいております資料、スケジュールの予定について、何か委員の皆様方のほうから、ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>どうぞ、ご自由にご発言いただきたいと思います。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>今、説明していただいた資料3の、中学校区別保育所入所待機児童の状況なんです、平成21年3月1日現在というのは、4月入所の振り分けが、4月からまた新しい待機児の方々が保育所に入所していきますよね。それは含んでいるのか、含んでいないのか、どちらなのでしょう。</p> |
| 事務局 | <p>この資料は、3月1日現在での待機児童がどれぐらいいらっしゃるのかという資料ですので、4月1日に入所をご希望されていらっしゃる方は見込んでおりません。ですから、この待機児中で、多くの方が4月1日付で入所をしていただけるものと思っております。例年4月になりますと、5歳児の方が小学校に入られます。それで、それぞれクラスが持ち上がりまして、一定、定員が空いたり、出入りがあるわけですけれども、4月から年度が始まりまして、翌年の3月に向けて、待機児童は徐々に増えてきて、3月1日がほぼ年度間で一番最大の数値を示すというふうな傾向がございますけれども、その時点での資料ということですので。4月になりますと、先ほど申し上げましたとおり、異動がありますので、この方々のうちの多くの方は保育所に入っていただけという状況が例年です。20年の4月時点では、新基準の方の待機が3名ということがございますので、21年の4月の段階で、どこまで解消できるのか、それに近い数字になるのかというふうなことは、今、現在選考を続けておりますので、最終的な結果を見てみないとわからないということなので、やはり経済的に厳しい状況が続いておりますので、入所希望の方、若干増えてきております。4月1日では、昨年の3名を少し上回る数字になるのではないかなという推測をいたしております。</p> <p>いずれにいたしましても、この資料は3月1日現在ということでございます。</p> |
| 会長 | <p>よろしいでしょうか。 他に何かご質問はございませんか。</p> |
| 委員 | <p>すみません。わからないだけかもしれないんですけど、この資料3の表、川西南中学校校区とか、川西中学校校区の待機者数が出ているんですけど、この裏を見てみると、川西南は公立2つあって、川西は公立5つに、私立3つあって、たしか前の資料だと、公立の保育園は結構余裕があるように思ったんですけども、どうしてこの人たちは、今現在待機しているのかなと思うのですけれども。</p> |
| 事務局 | <p>空きについてなんですけれども、4歳、5歳のいわゆる幼稚園と競合する年齢の方につきましては、やはり空きがある保育所もございます。ただ、やはり1歳、2歳の子どもさんは、ほぼすべての保育所で定員を超える受け入れをしているという状況でありますので、やはり年齢的な部分で、入れない方がいらっしゃるということが1点と、あともう1点は、保育所に入所していただく仕組みなんですけれども、保護者の方から、ご希望をお聞かせいただいて、第1希望はどこですよ、第2希望はどこですよということ、ご希望をお聞かせいただいて、そのご希望に沿うような形で入所していただくわけですが、仮にその第1希望しか書かれなかった場合は、第1希望の保育所が空くまでずっと待機児童でいらっしゃるということもございますので、概ね、この2点ぐらいの理由から、待機が発生してきているふうな状況です。</p> |
| 会長 | <p>よろしいでしょうか。 他にございませんか。 ちょっと教えていただきたいんですが、この新基準というのは、平成21年から使っておられるんですか。</p> |
| 事務局 | <p>新基準は、もう10年近くなると思います。恐らく平成12・3年くらいかな、ちょっと正確には……。</p> |
| 会長 | <p>もう随分前からということですね。この就労希望を含むという旧基準なんです、これは、実際に子どもさんを抱えて、これから仕事を探そうとするような方は該当するわ</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>けですよね。そういう方を、新基準で引いたというのは何か理由等あるのでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>これは、あくまで国の定めた基準で。</p> |
| 会長 | <p>国の基準に従ったと。そしたら国の施行令の基準に従っているという形ですね。</p> |
| 委員 | <p>いつだったか、国の基準が変わって、就労希望の人とか、それから本当だったら入れる保育所はあるんだけど、この保育所に入りたいたから待ちますみたいな、本当は入れるんだけど、ある特定の保育所に入りたくて入所できなかった人みたいなのは、もう数字を省くことになったんですね。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。新基準の考え方、委員がおっしゃったように、新基準の規定は随分前なんですけれども、その規定はかなり変わってきました。新基準の捉まえ方が変わってきて、今おっしゃられましたように、ここの保育所しか希望しないと、隣の保育所が空いているのにここしか行かないという方については、いわゆる新基準の待機児童ではないですよというような形で、国から基準の、こういう人を待機児童としてカウントしないというような形で、変わってきています。</p> |
| 会長 | <p>この会議は懇話会ということなので、自由な意見を述べるができると思います。多分、児童福祉法の施行令の中に、保育を要する子どもの条件という国の提示基準があったと思います。その幾つかの中の一つ最後に、その他これに準ずる状態にあるという、そういう条項があって、それをどう活用するかということになってくると思うんですが、私が懸念しているのは、今本当に経済が傾いてきている中で、例えば離婚して子どもさんを引き取って働かなければならないときに、そういう方の子どもさんを、やっぱり一定フォローできる、そういう仕組みも必要ではないかというふうに感じているわけなんです。ですから、ちょっと気になったという点です。</p> <p>他に、何かございませんか。アンケートに関してでも結構でございます。また、どういふ集計をするかについては、今出てこなくても、事務局さんのほうに伝えればよいということなので。</p> |
| 委員 | <p>アンケートの結果をざっとしたラフな集計ですけれども、見るとやっぱり保護者も、職員の方も私立保育園のほうの満足度が高くなっていますよね。そうやって、公立、私立というふうに比較すると、そういうふうに数字的にはあらわれてくるんですけれども、このあたりどんなふうに読まれるのかなと思って。</p> |
| 会長 | <p>そうですね。それと私、もう一つ、こういう言い方していいのかわかりませんが、意外に思ったのは認可外の保育施設の評価が高いですね。これちょっと私、意外という失礼に当たるのですが、そして今4・5歳の子どもについて一定定員が空いているところもあるというふうな形なんです、それでも保護者の方の半数近くの方が、現在通所中の認可外のところに続けて通いたいとおっしゃっておられるという点。これもちょっと、ああそうなんだというふうに思ったんですね。</p> |
| 委員 | <p>保護者の方の声などを聞いていると、やはり子どもを預ける場所を一定決めたときに、自分がもう入所させた、その場をやっぱりよしとするというか、そういう心情というのが働くんだというように思うんですね。私も具体的な声で、やっぱりそれで、多くの認可外に行っているのは乳児さんだと思うのです。そうすると、赤ちゃんがやっとなれて、そのどこかが、公立とか認可保育所が、空きが出たという、そこで転所するということになる、親としては非常に複雑な気持ちで、転所できるのがうれしくもあり、せつなく赤ちゃんがなれた保育園に、また一から違うところに行かせるしんどさという、そんなんで、必ずしも、転所できて万々歳というような心情じゃないんだなというの、具体的な声でよく聞きます。だから、それがこうやって数字でもあらわれているんだなと。毎日、毎日そこに預けているわけだから、やはりそこがいろいろ問題はあろうと、良いというふう親としては考えていくという傾向があるのかなと思</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>ったりもします。</p> |
| 会 長 | <p>確かに0歳児は、割合から見ると、多いですね。</p> |
| 委 員 | <p>ですから、私、これを見てちょっと感じたのは、やはり行政として、保育責任というのを考えたときに、民間保育所であったり、認可外保育所であったり、そういうところにも、きちっと手厚い助成というかな、そういうことをして、子どもたちがどこに行くかによって、すごく条件が違うというようなことがないようにしていかなければいけないんじゃないかなと思うんですね。</p> |
| 会 長 | <p>私の知ってる範囲なのですが、認可外の保育施設の管轄は都道府県ですね。市もやはり監査に入っておられるんですか。</p> |
| 事務局 | <p>市も監査にも同行はいたします。基本は都道府県ですが、本市の場合、独自で認可外にも補助を実施しております。ですから、そういう関係で市とも直接かかわり合いは、かなり深いものはありますけれども。</p> |
| 委 員 | <p>保護者の方って、そこが認可外保育所なのか、認可保育所なのかよくわからないというような現状もあるんです。この間も、私はちょっと、びっくりしたんですけども、私がある認可保育所に行っているときに、たまたま保護者の方が来られまして、「何々保育所ってどこですか」と言って、入所申請というか、自分の子どもを預けたいのだけれどもと言って。「いやいや、ここではないですよ」と言って、それでそのときに何々保育所と言われたのを、私、覚えていて、その認可保育所から帰りに、「あっ、ここだわ」って思ったのは、下が何か倉庫になっていて、その上にある、認可外の保育所だったんです。ああ、あそこに預けようと思って探しておられたのだなと。多分、保育所だと分からなくて、保育所らしき建物があれば、それがこっちあったんで、たまたま来られたんだと思います。どこまで認可外と認可の条件の違いであるとか、そういうのを保護者が知っているかということになるとなかなか、知ってられる方はよく知ってられるけれども、ほとんどそういうことを余り考えずに、とりあえずどこかに預けたいという、切実な思いで探してられるというのもあるので、この差をなくしていくことが重要だと思った。そして、やっぱり公的保育が重要よと、川西で考えるような保育は、公立であろうと民間であろうと、認可外であろうと、本当は認可外が認可になるのがいいんですけども、やはり、どこもきちんと守ってやれるような、行政としての監督指導というか、そういうような体制づくりが非常に急がれるというか……。</p> |
| 会 長 | <p>どこも大体、9時間を超えて、公立であろうと私立であろうと、認可外であろうと、9時間を超えて子どもさんがいる場所ですので。小学校よりも長いですわね。</p> |
| 委 員 | <p>だから大事な場所です。</p> |
| 会 長 | <p>アンケートと、そして21年度の予定について、何かご意見はございませんか。</p> |
| 委 員 | <p>今、おっしゃられていた認可外の分なんですけれども、公立はほとんど月から金まで、殆ど100に近い数字やけれども、認可外のほうはばらつきがあって、変則かパートか、月から金じゃない方たちが選んで預けてはるなというのは、私も感じたんですけども、間14のところの、認可保育所に入所できなかった方もやはり4割はおられて、そのうち間17で、できるだけ早く認可保育所に入所したいという方も実際おられるんです。それで、そこで何か以前お聞きした話で、公立から公立の転所は川西は優遇してくれる。1年待ったら、次は希望のところ大体枠が増えるので、行かせてもらえるのだけれども、無認可から認可に行く転所はかなり難しいというのを聞いたことがあって、その辺は、何でもかというのをお聞きしたいし、その制度を知らずに、とりあえず無認可に入れておいて、転所できると思っているけれどもできない方。前、私が通わせていた保育所の所長から聞いて、この人たちは、空きがあれば転所したいと思っている人た</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>ちは、やはり救ってあげるべきだし、ここがいいと思ってはる人たちは、もうそれで、何としても公立へとかは思わないんですけども、もともと転所できると思ってて無認可に入っているのに、転所できないということは、どうなのかなというのは思います。だから、問17に、できるだけ早く入所したいというのと、4月からは認可に行きたいという方がおられるあたり。何でそれが公立から公立とか、認可から認可は行けるけれども、無認可から認可に行けないのは、どうしてなのかは、また説明してもらいたいし、できるようにしてもらいたいなと思います。</p> |
| 会 長 | <p>まずそれが、実際そうなのか、どうなのかという話ですね。</p> |
| 事務局 | <p>転所に関してなのですけれども、年度途中の転所というのは、川西の場合は認めておりませんで、年度末に転所の検討をいたします。例えば、兄弟そろって同じ保育所に入れなかったと。お一人については入れるのですが、2人そろっての希望は、かないにくいというような事例が実際にございまして、中には分かれて、2カ所に入所されているという事例がございます。そういった方については、年度末に転所希望の意向を聞かせていただいて、その中で可能であれば転所について、検討させていただくというような形になっております。</p> <p>一方、認可外につきましては、一定認可保育所に入れなかったという方が、結果的には認可外のほうにも行かれるということにもなるかと思うんですが、その場合、今お話が出てきているように、認可外から認可へについては、転所というような呼び方ではなくて、改めて年度がわりを目途に申請をしていただいてという形になりますよということで、一定、それまでの間をつないでいただくというような形での入所というふうな取り扱いになっております。</p> |
| 会 長 | <p>新規入所という形ですね。</p> |
| 委 員 | <p>今入るところがあるから、点数が下がるとかいうのではないんですか。</p> |
| 事務局 | <p>点数は逆に待機ということであれば、逆に点数は、加算はされる制度にはなっているんですけども。</p> |
| 委 員 | <p>無認可は待機に入るんですか。私は、別にそれをどうして欲しいとかじゃなくて、川西の保育所の所長が、そういう感じで保護者に対して説明をしているから、それが間違いなら、所長のほうに伝えないといけないし。結局、保護者が見学に来られて、そういう対応をしていたから、それを聞いたんです。</p> |
| 事務局 | <p>先ほど新基準のカウントの仕方も、ご説明させていただきましたですけども、その中で、無認可で入っておられる児童については待機ではありませんというような。新基準で言うんですね。そういうような、国からのいわゆる条件がありまして。ですから、基本的には認可外でいらっしゃる方については、一応保育は保障されているというような考え方です。ただ、今申し上げたように、認可外と認可とは制度上は違いますので、そのままいわゆる転所として、他の保育所に優先的に替われるというようなことにはならないですね。</p> |
| 委 員 | <p>恐らく認可外に入っていると保育には欠けないということに行政上からは判断される可能性は高いんですね。保育はされていると。ですから、例えば保育所入所基準としては、保育に欠ける児童を優先することからすると、優先順位は若干低まるのではないのかなということで、恐らく川西市としても保育に欠ける条件の該当性としてはやや低くなっておるといような、経験上からそういうような感触は持ちますね。だけど、基本的には、市民から見ればそれは自己矛盾というんでしょうか、行政矛盾でもあるんですね。というのは、本当は入りたかったけれども入れないから、たまたま認可外に入れてるんだと。にもかかわらず、今度入るときには入る順位が低くなってしまふ。じゃ、一旦やめないと入れないのかと、そういう矛盾は今のシステムからいけば、先ほ</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>ど先生が言われたように、言えば公立、民間、さらに認可外という格好での、後をぬぐう格好である存在なんですよ。ですから、それをたまたま保護者は選んで、やむを得ず選んだ状態にもかかわらず、それが正規に選んだという格好になっちゃうんです。ですから、やっぱりちょっとそこら辺は、少し整理していくべき課題でしょうね。</p> |
| 委員長 | <p>お願いします。</p> |
| 委員長 | <p>ございませんか、今、何かご意見。 今日はこの後、「まちづくりの中の保育所の位置づけ」というテーマでフリートークを行いたいと思いますが、いかがでしょうか。 認可外の保育施設については、保育内容についても評価して利用しておられるところ、そういうのがアンケートからも少し伺えるんですが、やはり最低基準の遵守という点については、やはり認可外は若干緩やかですし、何よりも、今度の保育指針の改定の中でも、小学校との連携といったあたりが揚げられています。これまで幼稚園は小学校とつながるということを非常に意識しておられたんですが、保育所においても、やはりこの就学ということにつないでいかなければならないという。認可外も同じようにやはり子どもさんが就学につながるということを、いろいろなところで意識していただく、そういうことも必要なんではないかなというふうな気がします。今、一定預けられている子どもさんたち、親御さんたちが満足していたとしても、やはりそういう認可外の保育所の先生方も、学校に行く子どもたちという、そんな目で見ていただきたいという気がします。</p> |
| 委員長 | <p>【3. 意見交換】 時間がちょっと、どんとどんと過ぎておるんですが、このあたりで今日は最後の、20年度最後の懇話会という形になりますので、最後にフリートーキングで、「まちづくりの中の保育所の位置づけ」というテーマをいただきましたので、川西市のまち全体を見ての保育所のあり方ですね、そのあたりのことをいろいろご意見をいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。どなたからでも結構です。</p> |
| 委員 | <p>中学校区別の、保育所入所の待機児童の表なんですけれども、これを見ましても、本当に保育所が集中している川西中学校校区でも、たくさん子どもたちが3月時点でも待機ということで上がっているんですけれども、本当に川西市の地域、地理というか、こういう状況を考えて、今、南部のほうに、たくさん待機の方がいらっしゃるんですけれども、南部では、施設が少ないというのが一番あると思うんですけれども、そういうところで、私立幼稚園はありませんので、公立でしか対応ができてない状況の中で、それでも入っている子どもたちは、たくさんいるんですね。入所率が14.89%ということは、随分高い率で子どもたちも入所しているというふうに思うんです。そこで一番何が足りないのかなというところもまず考えていただきたいと思うんですけれども、この地域には乳児を預かる施設が全くないというふうに思っているんです。また、川西の中学校区の中でたくさん保育所があるにもかかわらず、待機がいたりとかするということでは、本当に入りたい、今こういう不況の中ですので、また増えてきていると思うんです。そう意味でもたくさんあっても、まだあっても入りたいという希望があるのだなというふうに思いました。今、川西市は北部で言いますと、公立幼稚園とか、私立幼稚園がたくさんあるわけなんです。ここの関係で言いますと、ここは保育所がない空白地なんですけれども、本当に、そこでの川西市がどんなふうな保育行政というか、保育所を造っていかしているのか。空白地に保育所を建ててほしいという希望もたくさんありますので、その辺は、どんなふう、これから考えていったらいいのかなというのが、この私立幼稚園との関係で、すごく難しいというふうには、少し、個人的に感じる部分もあるんですけれども、そういう意味では、大きく今の幼児教育というんですが、そこら辺のところも併せて、少し考えていかないといけないのかなというふうには思います。南部には、ぜひ乳児施設も欲しいですし、この空白地域の保育所、整備というのも考えていってほしいというふうに思っています。</p> |

| | |
|-----|--|
| 会 長 | 地理的な配置そして幼児教育等も含めてという、そういうご意見をいただいたんですが、すみません。ちょっと私、お話を聞きながら考えて、飛んでしまったんですが、空白地域というのはどこでしたですかね。 |
| 委 員 | 保育所がない地域、清和台などの地域です。 |
| 会 長 | この地図で見るとそうですね。 |
| 委 員 | ちきゅうっこから北部、畦野のこどもの里からちょっと南側というところは、全く保育所がありません。 |
| 会 長 | 明峰ですか、明峰中学校とお呼びするんですか。これはどのあたりになるんですか。この保育所、幼稚園の配置図からいうと、川西北の上ぐらいですか。多田よりは下。 |
| 事務局 | ちきゅうっこ保育園のちょうど北側あたりですね。 |
| 委 員 | じゃ、この区切りを別に中学校区で区切っているわけではないんですね。この地図の区切りは。 |
| 事務局 | この区切りは幼稚園の校区だと思います。 |
| 委 員 | それで何かよくわからなかった。 |
| 会 長 | ということは、幼稚園の校区ということは小学校の、でもないんですね。 |
| 委 員 | 小学校でもないんですか。 |
| 委 員 | この地図にちょっと中学校を入れて……。 |
| 委 員 | それは中学校ともずれているのです。 |
| 委 員 | 川西小学校は中学校区2つに重なっているんです、分かれて。 |
| 委 員 | 校区がいろいろと入り組んでおります。 |
| 会 長 | これで見ますと、東谷中学校の校区が、就学前の子どもさんが一番多くて、そして川西、多田という形になるんですね。 |
| 委 員 | 何か、ちょっと適正配置を考えるのであれば、もうちょっと違う資料を。中学校区なら中学校区で分けて、ここに子どもの数が中学校区で書いてあるので。 |
| 事務局 | 大雑把に申し上げまして、川西をよくご存じでない委員もいらっしゃいますので。一番下から、1ページの図の東谷中学校区というのが、この地図で言いましたら、ちょっと北部の公立幼稚園で申しあげましたら、東谷幼稚園、牧の台幼稚園ですね、この2つの部分がすべて東谷中学校区になりますね。 |
| 委 員 | すごく広いですね。 |
| 事務局 | 広いですけども、山間部が多いんですけどもね。それで、次の清和台中学校区というのは、幼稚園区ですので、白い丸の部分です。清和台幼稚園の左側にあるところ、この部分がすべて清和台中学校区ですね。それと緑台校区といいますのは、ちょうど真ん中に松風幼稚園というのが入っていますが、この部分が緑台中学校区ですね。多田、明峰がちょうど、ど真ん中の多田幼稚園となっているのが、これはちょうど、この2つ |

| | |
|-----|--|
| | <p>分なんで、幼稚園のほうが広いんですね。ちょうどこの左部分が、民間の藤が丘幼稚園になっている部分です。そのあたりが明峰中学校区です。それで多田保育所の右側、星印の多田保育所、このあたりが多田中学校区です。川西中学校区というのが、その少し細くなっている部分で、保育園や幼稚園がちょうど集中しているところです。先ほど申し上げた明峰校区がちょっと食い込んでいるとは思うんですけども、ちきゅうっこあたりから南側ですね。栄、川西幼稚園となっている、この部分が川西中学校区で、あと、加茂の2つと川西南となっているところが、南中学校区です。</p> |
| 委 員 | <p>ちょっと校区とは違う視点なんですけれども、前にいただいた資料の中はないかと探したんですけども、よう見つけなくて。入所率というのが、昨年度の10月1日ので出していただいているんですけども、都市とか、いろんなところによって入所率というのは違うとは思うんですけども、やっぱり川西市として、必要とする人はもちろん受け入れていかなければいけないのですが、どのあたりが目標値なのかみたいなのは、全然そういうのは頭の中に入れておかなくてもいいのか、やはりそういうものを、ある程度目標値みたいなものを近隣市などを見ながら、そういうものを頭におきながら充足を図っていくという、もちろん地域の格差というのはすごい今出ているので、そこそこは埋めていく必要は絶対あると思うんですけども、その辺の目標みたいなものというのは、市のこういう保育行政とか考えていくときに、どういうふうな一視点として持つておくべきなのかなというのがちょっと見ながら思っていて、実際に今年度の、まだちょっと確定はしていないんですけども、うちの保育所中央区なんですけれども、やはり集中している保育所なんです。たしか3歳・4歳・5歳は空いているんです。1歳については例年、本当にいっぱいなんですけれども、今年に限って言えば、本当に0歳児と2歳児のお部屋がちょっと空いている状態で、今の段階で、まだ若干4月までは余裕があるので、もう少しプラス・アルファが出るかもしれないというのは聞いているんです。何かその辺が、アンバランスなことが一つは影響してきてて、そこに集中してきたことで、そういう結果に今年はなっているのかなとか、一過性のものなのかなとか思いながら、別に統計もとっているわけでもないんですけども。何かそういう、それぞれの地域での入所率の目標値みたいなものというのは、どう思っておけばいいのかなと思って、素朴な疑問で、今思っているんです。</p> |
| 会 長 | <p>ありがとうございます。余り詳しくは知らないんですが、次世代育成の支援計画ですか、多分リニューアルという時期を迎えておられて、多くの市で、そういう次世代育成支援計画の策定のためのニーズ調査なんかをしておられると思うんです。</p> <p>この中で一定、保育ニーズ量ですか、そういうものがあぶり出される予定だと思います。ただ、今回の調査、国が出しているアンケート項目の中で、自分の身内や、あるいは、ちょっと子どもさんを預けられる、そういう資源を持っておられるかどうか、そんな項目なんかも入っておったと思います。ますます親御さんが、どういう子どもさんの生活場所を選ばれるかというあたりが、やはり保育ニーズ量にかかってくると思うんです。多分、保育ニーズというのは、下がることはないだろうと思ってるんですが、何せ相手のあることなので、アンケートをとって推計しながら、保育ニーズ量を出していくわけでしょうけれども。だから、究極的に、保育ニーズの、どこで見てもおかなければならないのかということなんですが、また事務局さんにももし説明していただけたらいいのかなと思いますけれども。私は、保育のニーズがあるにもかかわらず、保育所や認可外にも預けられないような、そんな子どもさんが存在していないとか、そういう状態が理想なのかなというふうに思っています。だから、どこにも預けることができなくて、おうちの中で、親御さんにも十分面倒を見ておられない、そういう状態が一番困るのかなというふうに思ってますが。</p> |
| 委 員 | <p>前もちょっと議論になったんですけども、やはり全体の平均から見ると川西の保育者入所率というのは低いんですね。だから、それがどういうことを背景にしているのかなというのは、一つあると思うんですけども。でも、いろんな地域の実情はあるでしょうし、何%は入っていきなくちゃいけないなどということも、抽象的にはならないと思うんです。今、先生がおっしゃったみたいに、やはりどんなニーズがあるかだと思</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>んですけども、国の方針も何かいろいろに揺れますよね。先ほどの待機児童の出し方も、厳しくしたりして、待機児童数を数字上は減らそうというような動きがあるんですけども（あったのだけども）今度の次世代育成の後期計画については、潜在的ニーズを出せというようなことで、言っていますよね。だから、あれば、そういうことが十分に、ちゃんと環境としてあれば働きたいであるとか、そういう潜在的な、今も働いて、預けるところがなくて困っているというだけのニーズじゃなくて、そういう潜在的ニーズを今回は出せというふうなことを言っているし、国としては、今200万人ぐらいの保育所入所児数を300万人まで上げようと言っているわけですから、国の方針として女性が働いてほしいというのがあるわけですけども、今度の次世代では、多分ニーズ調査の項目は、そういう潜在的ニーズをとるような調査項目がつけられていると思うんですけども、そこでどんなふうな数字が各地域で上がってくるかということをも十分きちんと分析する必要があるかなと思いますよね。</p> <p>私も、先ほど、矛盾だと出たけれども、やはり待機児童数を抑制していくんじゃなくて、環境があれば預けて働きたいなというような思いも含めて、保育環境を行政として市として、整備していくということが子育てに優しいまちにつながっていくことかなと、個人的には思うんです。全く保育施設がない地域もあって、緑台とか、清和台の方は、川西とか、こっちに預けに来られているのでしょうかね、きっと通勤ここを通るから、ここから電車に乗って行かれるんでしょうね。</p> |
| 委員 | <p>緑台や多田や清和台から、中央地区におりてこられて、そのまま出勤されるっていうケースも多いですよ。</p> |
| 委員 | <p>今、おっしゃった潜在的ニーズなんですけれども、何となくうちの近所の人の話を聞いてると、働きたいけど、でも中途半端に辞めてしまって、新しいパートみたいなのが見つかって、中途半端に働いて預けると、ある程度、夫の収入があれば逆に、「保育料のほうが高いからやめておくれ」となって。だから、入所率と所得には関係があるんじゃないかなと。</p> <p>そうしたら川西市として何ができるのかなと思ったら、空白地域に今さら保育園を建てるにしても、多分財政的にはしんどいんじゃないかなと思うので、それだったら、今あるものを活用して、ある保育園ではバスを走らせてくれているんですけど、そんな感じ。バスも時刻は合わないし、なかなか利用もしにくいんですけども、それとか駐車場が広い。行事があったら、本当、車をとめるところが、皆やはり遠くから来ていたりするから、車で来たいけど、とめられないというのがあって、駐車場を確保するとか。新しい保育園を建てるんだったら、その分ちょっと保育料を安くしてくれるとか。</p> <p>やっぱり、1歳から2歳児の待機が多いということだったら、それに対応できるようなソフト面を充実してくれるとか、何かお金が余りかからなくて、何か今あるものでできることを考えられたらと思うだけで、難しいんですけども。</p> <p>話は違うんですけども、資料1-2の認可保育所保護者アンケートの、一番最後のページを見て思ったのは、まちづくりということで見てたんですけども、地域の子育てを支援する事業はどのような事業を希望しますかというので、上のほうがやはり割合が高くて、それはどれだけ子どもを預けられるかということで、下の方は支援とか交流とかで、結構割合は少ないんですけども、9時間も預けている保育園からやっぱりいろんなことを発信してもらったら、忙しくて見られないおうちも多いとは思いますが、それでもいっぱい、子どもの様子とか、先生たちが普段気をつけてくれていることとか、こんな気持ちで育てているかというのをいっぱい発信してもらったり、話聞けたりするときはあったら、何か子育て支援してもらえると、親の意識も高まるんじゃないかなと。何か今、この表を見ると、親は保育園に、とにかく預けたいというのが見えてくるんですけど、それも大事だけれども、9時間も預けている保育園の先生と保護者がつながれるようなのがあればなど。親のニーズは少ないんですけども、やはりあって欲しいなと。それで、親の気持ちを変えていってほしいなと思います。</p> <p>以上です。</p> |
| 会長 | <p>そうですね。この認可外、そして認可の保育所の保護者の方々のアンケートを見てま</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>すと、やはり何か緊急時の保育にかなり期待をしておられるのと、それと園庭開放とか、あるいは子育てサークルの育成支援とか、そんなあたり、子育て講座も何か一般的によく地域の中で展開されるものが、余り上がって来てない感じですよ。これももしかしたら、幼稚園のほうがこういったニーズ高いんですかね。どうなんでしょうね。</p> |
| 委員 | <p>これは保育所に通われてる保護者の方に、アンケートですね。</p> |
| 会長 | <p>だから、多分この辺は、もうスルーしてこられるんですかね、きっと。</p> |
| 委員 | <p>だから相談支援や交流事業は、地域で保育所にも幼稚園にも行ってないぐらいの年齢のお子さんをお持ちの保護者の方に聞かされると、多分下の方に上がってくると思うんですよ。</p> |
| 会長 | <p>上がってくるのでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>これは、保育所に行かれている保護者の方やから、当然地域の子育ては支援じゃなくて、保育所の事業として、今以上に希望することは何かない部分で、お答えになられてると思うんですよ。だから、病児保育をお願いしたいであるとか、日曜や祝日なんかにお仕事の方がいらっしゃったら、そこも見てほしいであるとか、やはりそういう部分に多くなるのは当然じゃないかなと思うのです。保育所にふだん先生に見ていただいている間の時間帯で、地域にいる子どもを持った保護者は何を希望するかなという、地域の子育てを支援というような形でのアンケートは、これでは出てこないと思うんですけども。</p> |
| 委員 | <p>先ほどちょっと委員ご質問の、前に資料をいただいた第3回目の資料中に、資料5として、阪神各地の保育所、幼稚園の入所状況というのが出てきて、これ見ると、はっきりと確かに委員の言われるように、川西市のほうは保育所の入所率は若干他市に比べると低いと。ただし幼稚園のほうはそれほど差はないということ言えば、保育所を必要とする方がどの程度なのか、はっきりちょっとわからない。器が狭いから、どうなのかという問題とは、どのように関連があるかはちょっとわからないんですが、待機児童率がどの程度なのか、少し把握しないとはっきりしないということがあります。この資料5は、かなりそういう意味では、有効な資料なのかなと。3回目にいただいた資料には出てますよね、はっきりと。</p> <p>それと、もう一つは、保護者のアンケートの中で、かなり市民の要請されている内容とか、あるいは保護者等が考えられている内容は明確に出ているのではないかという気はします。特に、先ほどちょっと問題になっていた保育所に対しての地域の子育て支援なんかについても、とりわけ保護者なんかは、最も問題になるのは、やっぱり一時的にどうしても預けたいとか、あるいは病気になったとき、病後見ないしは病児保育をしてほしいとかいうようなことに対しては、かなり率は高いですね。そういったピンチのときの保育所の役割というのが、もっと整備されるべき行政的課題として、この中から浮かび上がってきているのかなという気はしました。</p> <p>それから資料1-3ですかね。保育士のアンケート調査結果ですが、これも明確に公と私の役割というんでしょうか、現状をどういうふうになっているのかというのを、明確に見て取れる内容ですね。特に問4ですが、公立保育所の、保育士さんの経験年数の差ですね。これはやっぱり保育の質との関連の中で、保育を考えていく中では、かなり、ある程度注目すべき資料なんです。例えば10年以上40年未満の方が、公立は72%。民間の場合には、1年以上10年未満で60%近くを占めると。ということは、高齢になっていくと民間では非常に職員が減っていく。高齢者は辞めてるのか何かちょっとわからないんですけども、継続性、勤続年数からいけば、かなり厳しい状態になっているというようなことで、これがどういうふうに関係しているのか具体的にちょっと明確にしていけないとあかんだろうと思いますが、そういう意味では、保育所の適正配置表をまちづくりの中で、保育所をどう位置づけていくのかということが問題なんですけれども。基本的には保育所の適正配置ですね、具体的に保育所を適正に配置</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>もう子育て終わっていますけれども、いつもそのように感じています。</p> |
| <p>会 長</p> | <p>ありがとうございます。貴重なご意見をいただきまして。 いかがですか、まだ時間ございますので。</p> |
| <p>委 員</p> | <p>川西市が今、提案されているまちづくりのプランがありますね。ビオタウン構想というのがあって、中央北地区の再開発計画の中で、今後まちづくりをしていくときに、保育所を含めて子育て支援というのが具体的にどう展開されるのか。そのモデルケースとして、僕は、ビオタウンの一つの計画が大きな役割を果たすだろうというふうに考えています。それはこの中に、子どもたちに非常にいい環境を造っていこうということで、川が流れて、池があって山があって、遊び場があるビオタウン。4つのゾーンに分かれていますけれども、その中で1つは、大きな役割としては、そういう公園づくりがあります。それは、たまたま私たちのグループがかかわった内容なのですが、子どもの感性と想像力を具体的にどうやって生かしていくかといったときには、やはり川とか森とか池とか土とか、もちろん保育所では砂遊びが中心になっていますけれども、そういった子どもに自然をもう一度取り戻す環境づくり。意外と川西はそれ大きい結構たくさんあるんです。しかしながら有効に利用できないような状況があると。公園を見直そうということなんです、公園はかなり規制が強いです。してはいけないことばかりがたくさんあって、やってはいい環境にはない。例えば僕ら土曜日、日曜日公園を回ると、案外子どもが遊んでいるようで遊んでないんですね。思いっきり遊んでない。石を投げてはいけないし、砂遊びをしてはいけない。土遊びはいけない。いわゆるおとなの遊び場にややなりつつあると。川西にもそれがあるんです。ところが、川西は結構自然が近いんですね。特に、猪名川なんかがあって、中央北地区なんかは、火打の中を流れる川には、物すごくいろんな動物、生物が住んでいます。これはびっくりしました。一度あそこに入っているいろんな生物に触れたんですけれども。ああいう場所を、もう一度子どもたちに取り戻していくような、私たちが昔体験したような、畑とか田んぼとか、緑とか、川、池。そういったものを取り返すビオタウン構想はぜひ、やはり1つのモデルとして有効に作用していただろうと思いますし、それを保育所の中に、僕は、幼稚園の中にも必要だと思います。幼稚園の中に、意外と小さな森、小さな池ができるんです。考えたら、これは。西宮のほうでは、全部の公立保育所と幼稚園がやったんですけれども、非常に有効です。子どもたちは、特に一番先に保育所に来てどこに行くかいうと、やはり池をのぞきます。池にメダカさんが泳いでいるのかなと、あるいはどんな動物がいるのかなと。そういう意味での自然と触れ合う中で、子どもたちは、お互いをお互いの中で認め合う関係も学んでいくのですよね。</p> <p>そういう意味で、やはりまちづくりの中に、一つの中央北地区のモデルとして、各地域にビオタウン構想を取り入れていくことができれば、川西市はすごいまちになるなということで、ぜひみんなが知恵と力で、やっていくのが必要なのかなと、最近実感しています。感想で申しわけないんですが。</p> |
| <p>会 長</p> | <p>ありがとうございます。最近、子どもさんが自然に触れられる場所というのがだんだんなくなってくる中で、川西市さんが持っておられる、そういう自然みたいな、そういうポテンシャルがありますので。</p> |
| <p>委 員</p> | <p>先ほど委員が言われてましたけれども、今、川西にある財産というんですか、あるものを大事にしながら造っていくということが一番大事だと思うんです。財政難ということもあるんですけれども、ある物を大事にしながら、豊かにできることをいっぱい増やしていくことを考えていくことが大事だなというふうに思っています。アンケートの中でも、いろいろ保護者の方のニーズというのはたくさんあると思うんですけれども、それに応えていける公立保育所であったり、認可保育所であったり、していかないといけないと思うんですけれども。どこの地域にいても、一定、同じような保育を受けられるんやというふうな平等感みたいなもんを。やっぱり市民の中で、ここに住んでたらこれは受けられるけれども、ここにおったら何も無いというのでは、不平等感みたいなものが、この市の中でも生まれないように、やはりどこの地域にいても、同じようなニーズに</p> |

| | |
|------------|---|
| | <p>応えてもらえるような、今ある施設の中でも、一時保育であったり、延長保育の話も出てきましたけれども、そういうことも十分できるような、今ある施設の中で少し改善しながらできるということも、なかなか大きく変えるというのは難しいかもしれないんですけども、やっぱり今ある施設の中で、できることを足元からしっかりつくっていくということをしていかないといけない。立ちおくられている部分はいっぱいあるんですけども、やはり一歩ずつ応えていきたいなというふうに思っているの、大きな保育所の整備計画の中にも、やはり少しずつ、きちっと積み重ねていくような、そういう施策、事業の適正化と言われてましたけれども、そこをしっかりと、私たちもやりたいというふうに保育士も思っていますし、その辺は具体的に考えていきたいなというふうに思っています。</p> |
| <p>会 長</p> | <p>ありがとうございます。</p> <p>それと今、委員のお話をお伺いしながら、いろいろ考えていたのですが、やはり保育所も幼稚園もそうですけれども、子どもさんが生活される場に、親御さんが連れて行かれて、そしてやはり親同士が、集まって人脈ができたり、広がっていくという形で、まちづくりにとっては、とても大事な施設だなというふうに本当に思いますね、幼稚園や保育所。その中で、今あるものを、どのように活用しながらという、そういう視点も大事だというお話、とても非常に、よくわかりました。</p> <p>もう1つ、私、ふと思ったんですけども、これは今回の懇話会の中でのテーマかどうかかわからないんですが、学童保育の問題です。保育所、幼稚園を超えて、今度は小学校に上がられたとき、やはり働いている親御さんにとって、学童保育というものが一定やっぱりニーズがあるかと思うんです。そういうものも、やはり、就学前の子どもさんだけではなくて、もう少し年齢幅を広げながら、そういう学童保育をやっておられるところの立地とか、そんなことも、もう少し先には考えなければならないのかなという気がしています。こちらの市では、学童保育、一生懸命にやっておられるのかどうか、私は余りよく知らなかったのですので、こういうことも申し上げてしまったんですけども、もしいっぱいやっておられたら、もう本当に申しわけございません。</p> <p>それと、保育所と幼稚園の配置状況の中で、今あるものがどうなのかというお話なんですけれども、この中に認可外の保育施設がプロットされておられませんよね。もしかしたら認可外の保育施設を建てるときには、そういう建てる方が相当ニーズ調査とかしておられるかもしれないですね。そういったところが、新たな開拓先に置かれているかもわかりませんね。そういうのもぜひ視野に入れていただきたいなと思います。</p> <p>残り時間、もうわずかになってきたんですが、特に何かご意見ございますか。</p> |
| <p>委 員</p> | <p>今、委員がおっしゃられたみたいに、今ある施設をという部分で、このアンケートの資料1-2の、認可保育所保護者アンケートの、先ほどから話題になっていた、子育て支援をどういうふうな事業がいいですかという内容で、日曜や祝日に保護者の仕事がある場合などに、子どもを預かってほしい、これが51%ありますよね。現在、川西市内の中に1カ所、休日保育事業をやっている保育所が、昨年10月からできていますが、それでもやはり51%あって、実際の利用はすごく少ないというふうに聞いているんです。でも、ここ51%という数字は出ているということは、やはりセンター方式というものが預けている親にとって、預けにくいのかなというふうに感じたりするんです。ニーズとしてはあるけれども、実際そういう事業があるけれども、なかなか預けられないという部分、そこは改善もしていかないといけないのかなと思いますし、親が子どもを休日に預けるときに、知らない保育所に連れて行って預けるということの不安というの、すごくあると思うんです。やはり自分の子どもが行っている保育所の中で休日保育をしてもらえると、随分と安心して子どもを預けられるという部分があるのかなというふうにも思いますし、何かちょっとそのセンター方式という部分でも、検討する余地があるのかなというふうには思います。それぞれの保育所で休日保育をすれば、お金のかかる話だから、なかなか難しい部分もあるかなと思うんですけども。</p> |
| <p>会 長</p> | <p>ありがとうございます。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>さっきからのある物をという話の中で、もう1点、ニーズにも出ているように、自宅に近いことと認可保育所がないところにあつたらいいと書かれているんですけども、公立でねと、前もらった資料の中でも、定員割れしているところとかがあるから、認定子ども園じゃなくて、認定子ども園を超える川西独自の、何か幼稚園の空き教室を利用したりとか。すると、各場所にできるのかなと思ったり。でも、それは今の認定子ども園の制度では無理だから、よりよいものをつくってもらいたいというのが1点と。</p> <p>この保育士さんのアンケートとかを見ていて、保護者のほうのアンケートとかも見ていて、施設面とかが安全じゃないというふうに書かれていて、保育士さんもすごいきちり書いてくれてて、保育士さんのアンケートの、問10のところ、やや危険だと思、危険だと思、というところで19%ぐらい書いてはるんですけども、その声はやっぱり拾ってもらって、行政の方がどんどん手を入れてもらわないと、毎日過ごしている保育士の方が、やや危険、危険やと思、というのと、9番の保育士さんのアンケートでも、施設や整備面で改善しないといけないとこに77%の声が上がっているあたりを、やはり行政の方は、もうちょっとお金を入れてもらって、快適に過ごせるようにしてもらいたいと思います。その辺、何かすごい、引っ張っていったらあれなんだけれども、あなたの保育所の施設は子どもにとって快適ですかというので、どちらともいえないから下で、44%とか、何かその辺をもうちょっとシビアに見てもらって、改善してもらいたいというのと、あと中央の方は、今ちょっと乳児さん空きがあるというふうに先ほど言われてたんだけど、前もらった資料で、加茂が4歳児10人、5歳児11人、合わせて21人というのが、例年ずっと続いているのであれば、4・5歳を、例えば合同にして、乳児をもうちょっと1人でも2人でもとってあげるようにすればちょっとは待機が減らせるのかなと思うのが、川西中央保育所も一緒に、9月1日現在で、4歳が11人、5歳が13人、合わせて24人が、毎年大体それぐらいの人数なのであれば、もうちょっと乳児さん、すごい待機が多い1・2歳あたりを、1人でも2人でもとってあげたらいいのかなというのを思いました。</p> |
| 会長 | 他に何かございませんでしょうか。 |
| 委員 | <p>先ほど委員からも、ハブ的な施設をみたいな提案があつたと思うんですけども、公立の保育所でも、子育て支援についてのハブ的な存在というのが、公立の中で作れていない現状があつて、その辺は川西市、民間も、もちろん子育て支援に早くから、むしろ公立よりも一歩先じるぐらいの形で取り組んでおられる保育所もあつたりするんですけども、やはり中心になつていろんな情報を集めたり、発信したり、周りをつないでいくというようなところの機能というのは、そこは公立がしっかり担うべきじゃないかなという思いが、皆持っているんですけども、その設備的な部分であつたり、人的な部分というような、いろんな制約みたいなものもありながら、今、模索しているところなんじゃないかなと思うんですけども。やっぱりここには、これは保育所に来られる方なんで、おうちにおられる方の子育ての支援に対する要望というのは、また別のアンケートできつと出てくると思うんですけども。実際、やっぱり園庭開放の場とか、プレイルームなんかの事業をやっている中で見えてくる部分というのは、やはりおうちにおられる方の支援という部分は、すごく増えてきているなというのは、切実に感じる場所もあるんで、そこのところをつなげていけるような観点を持った役割というのを、公立が中心になりながらつないでいくというところで、考えていきたいなというふうにはずつと思っています。</p> |
| 会長 | 時間になつてしまつたんですが、特に何かございませんか。 |
| 委員 | <p>このアンケートの保育士さんの経験年数なんですけど、やはり保育の質というのを継続して積み上げていくということを考えたときに、やはり、公立の保育士さんの、年齢のアンバランスというのかな、どんどん先細つていっているような。これは後々で禍根を残すのではないかという気がするんですけども。やはり一定数、新しい方もおられて、キャリアの人から学びながら、また新たに保育内容を創造していくというような条件を作っておかないと、ちょっと余りにも年齢構成が……。</p> |

| | |
|-----|--|
| 会 長 | <p>一挙に若返ってしまうという可能性があるね。</p> |
| 委 員 | <p>この27%の方が、ごそつといなくなつてとか、何か公立の存在というの、やはり非常に重要だと思うので、そこら辺のこともちょっと長い目で見ながら、考えていただきたいなと思います。</p> |
| 会 長 | <p>すみません。私も、最後に少しだけ。座長がしゃべっていたらだめだと思うんですけども。今の委員のお話で、保育士さんのアンケートの中で、私立の園の先生方の間12番目です。職場以外での研修や学習というのが、63.2%で、公立の先生方の倍近く、実際の数でもおられるというあたりです。やはり民間の園の先生方がいかに研修したいと思っておられるか、学習の機会が欲しいと思っておられるかというあたりが出てきていますので、こういうニーズをやはり大事にしたいなと思うのが1つと、最後に、今日の議論の中でも出てこなかったんですが、障害児保育ですね。通園施設も川西市さんの中にあつたかと思うんですが、通園施設と、障害児保育をやっておられるところと、やはりそういった子どもたちが、適正の場所で、適正の配置の中で、障害児保育が受けられるようにという、そういう観点もぜひ、どこかで考えていただけたらなというふうに思います。</p> <p>まだまだちょっとお話ししたいこともきっと出てくると思うのですが、この年度を明けて、6月あたりまで、ちょっと温めていただいて、21年度も、このメンバーですね。</p> |
| 委 員 | <p>【4. その他】</p> <p>6月ぐらいという時期で、先ほどから学童のことだったりとか、地域の方の、子育て支援に対するニーズだったりとかという部分は、次世代のほうで、もう既にアンケートが集約されつつあるのかなと思うんですが、6月ぐらいにそのアンケートの結果なんかも、この場でも結果を私たちが見ることができるとどうなのか、教えていただきたいです。</p> |
| 事務局 | <p>もうほぼ集計はできつつありますから、6月には恐らく公表できている状態だと思います。</p> |
| 会 長 | <p>私たちも、アクセスして見ることはできるはずですね。</p> <p>よろしいですか。ちょっと6月まで時間が空きますが、ぜひいろいろなチャンネルを使っていただいて、私も、もうちょっと勉強させていただきます。</p> <p>平成20年度5回にわたって、いろんなご意見をいただきまして、無事、今回最終回を迎えたわけですが、どうもおつき合いありがとうございました。また、平成21年度も4・5回開催されるみたいですので、どうぞおつき合いくださいますように、よろしくお願ひ申し上げます。また、お会いできる日を楽しみにしております。</p> <p>そしたら事務局さんにお返しします。</p> |
| 事務局 | <p>本日は誠にありがとうございました。また、懇話会では5回にわたりまして、本当に熱心なご議論、ありがとうございました。</p> <p>最後に事務的な連絡をさせていただきたいと思います。次回の会議日程につきましては、冒頭にもご説明させていただきましたとおり、6月ごろ開催を予定いたしております。会長さんとも日程調整をさせていただいて、開催の概ね1カ月ぐらい前のご案内を差し上げたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。6月で、あらかじめご都合の悪い日などございましたら、もしおわかりになるようでしたら、事前に事務局にお知らせいただきましたら、ありがたく思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>前回の懇話会の会議録につきまして、改めてご送付させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>事務局からは以上でございます。</p> |

| | |
|-----|---|
| 会 長 | 私、21年度は、月、木が出やすいんですけども。 |
| 委 員 | 木曜のほうがいいんです。皆さんはどうですか。 |
| 委 員 | 第3木曜日はだめなんだけれども……。 |
| 委 員 | 僕は第1週だけちょっとおりませんので。 |
| 会 長 | <p>【5. 閉会】</p> <p>今、お聞かせいただいたことを含んで、日程を調整させていただきたいと思います。どうも長時間にわたって、ご議論ありがとうございました。これで閉会させていただきます。</p> |